

# 「東海」「九州・沖縄」を筆頭に大半で改善～企業関連の項目を中心にやや地域差も

2024年1月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄  
主任研究員 新田 堯之

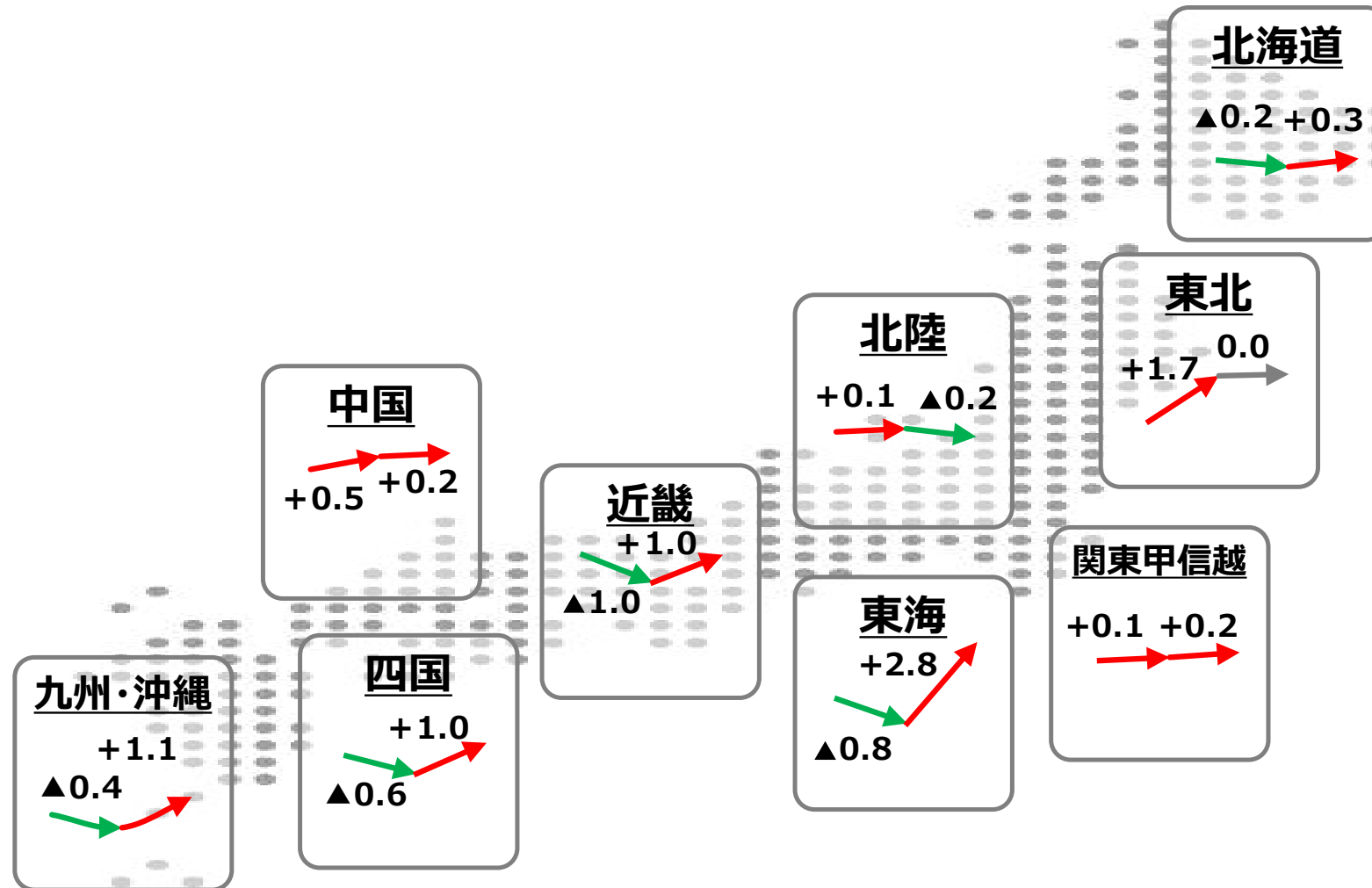
## [要約]

- 2024年1月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「東海」「九州・沖縄」など7地域で改善したが、「北陸」で悪化、「東北」は横ばいだった。なお、今回は令和6年能登半島地震による影響は考慮されていない。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費は「東海」「九州・沖縄」などで改善した。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の5類移行によるマインド改善や円安の影響を受けて、人々の外出やインバウンド客が増加しており、飲食・宿泊サービスの回復などの動きがプラスに寄与した。一方、「中国」では一部の秋・冬物衣料品の販売低調や物価高などの影響で、百貨店売上高や乗用車販売が振るわず、消費が悪化した。住宅投資は前回から大きな変化はなかった。雇用・所得環境は、慢性的な人手不足の影響で「関東甲信越」で改善した。企業関連では、生産は半導体の供給制約の緩和や高水準の受注残により「東海」で大きく改善したが、「北陸」では生産用機械の弱含みや金属製品の減少で悪化した。輸出は米国向け等が堅調で「東海」「九州・沖縄」が改善したが、中国・NIEs 向けの電子部品等が弱く「近畿」で悪化した。設備投資は脱炭素化、中長期的な半導体需要の増加、デジタル化等を見込んで「中国」で改善したものの、電子部品・デバイスにおける生産調整局面の長期化により「九州・沖縄」では悪化した。企業マインドは「四国」「近畿」などの地域で改善した。「四国」でははん用・生産用・業務用機械や電気機械など、「近畿」では窯業・土石製品、金属製品などがプラスに寄与した。今回、企業関連の項目を中心にやや地域差が見られる。
- 今後については、新型コロナウイルス感染症による影響がほぼ剥落し、賃金上昇やインバウンド客の増加も期待できることから、消費は緩やかな回復傾向が続くだろう。また、半導体における供給制約の一層の緩和などによる生産・輸出の改善と併せて、経済全体を押し上げる要因となりそうだ。一方で、中国の不動産不況等の影響を受けた海外経済の減速、賃金上昇ペースを上回る物価高による消費者の生活防衛意識の高まり、そして能登半島地震といったマイナスの影響が強まれば、生産・輸出や消費などを通じて景気にブレーキをかける可能性もある。全体として、各地域の経済は緩やかな改善傾向にあるが、海外動向や能登半島地震等の影響も注視しつつ、今後の地域経済の動向を見ていく必要があるだろう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクス課が担当している。

※ 本レポートの文章は GPT-4 ベースの ChatGPT が出力した内容を基に研究員が執筆した。

# 大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (23年7月→10月、23年10月→24年1月)



(注1) 各地域の数値は、2023年7月から10月の変化幅と2023年10月から2024年1月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

## ヒートマップ：大和地域AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（23年10月→24年1月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	+0.3						
東北	0.0						
北陸	▲0.2						
関東甲信越	+0.2						
東海	+2.8						
近畿	+1.0						
中国	+0.2						
四国	+1.0						
九州・沖縄	+1.1						

(注) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

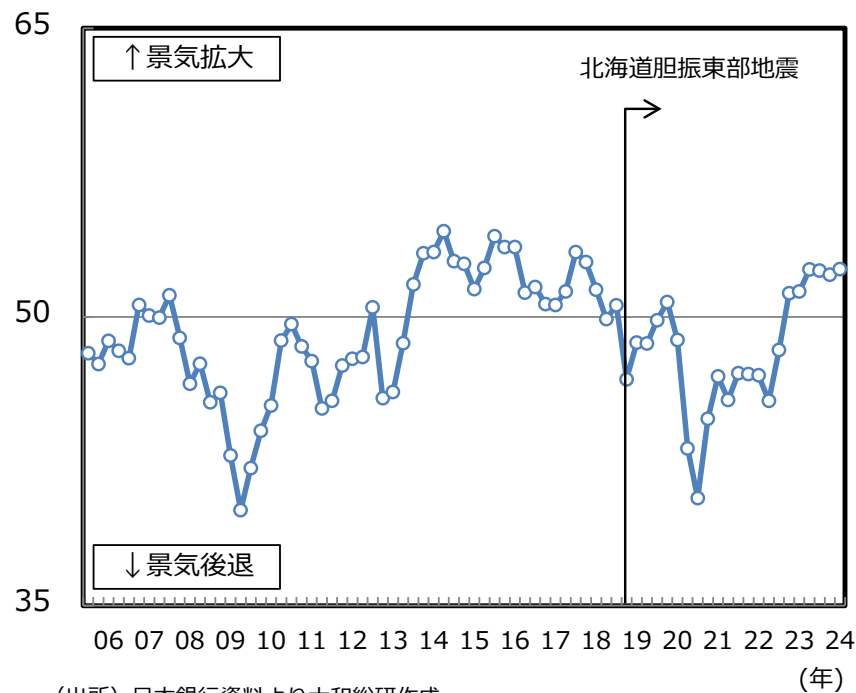
## 大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (23年10月→24年1月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(23年10月:52.2→24年1月:52.5)。ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスは微上昇にとどまった。
東北	大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいであった(23年10月:50.5→24年1月:50.5)。全ての項目が前回からほぼ横ばいであったため、インデックスに変化はなかった。
北陸	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した(23年10月:50.8→24年1月:50.6)。企業マインドは改善したが、生産が悪化したため、インデックス全体は低下した。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(23年10月:50.4→24年1月:50.6)。ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスは微上昇にとどまった。
東海	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(23年10月:51.3→24年1月:54.1)。生産、輸出、消費の改善がインデックスを押し上げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(23年10月:50.7→24年1月:51.7)。輸出などの判断は悪化した、企業マインドが改善したため、全体としてインデックスは上昇した。
中国	大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(23年10月:52.4→24年1月:52.6)。設備投資や企業マインドなどは改善したが、消費が悪化したため、インデックス自体は微上昇にとどまった。
四国	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(23年10月:50.6→24年1月:51.6)。企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに上昇した(23年10月:51.8→24年1月:52.9)。輸出や消費の改善がインデックスを押し上げた。

## 北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(23 年 10 月:52.2→24 年 1 月:52.5)。
- ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスは微上昇にとどまった。
- 中国の水産物輸入停止は、水産物輸出に引き続きマイナスの影響を与えている。こうした中、米国向けのホタテ輸出は増加している。

### 大和地域 AI インデックスの推移



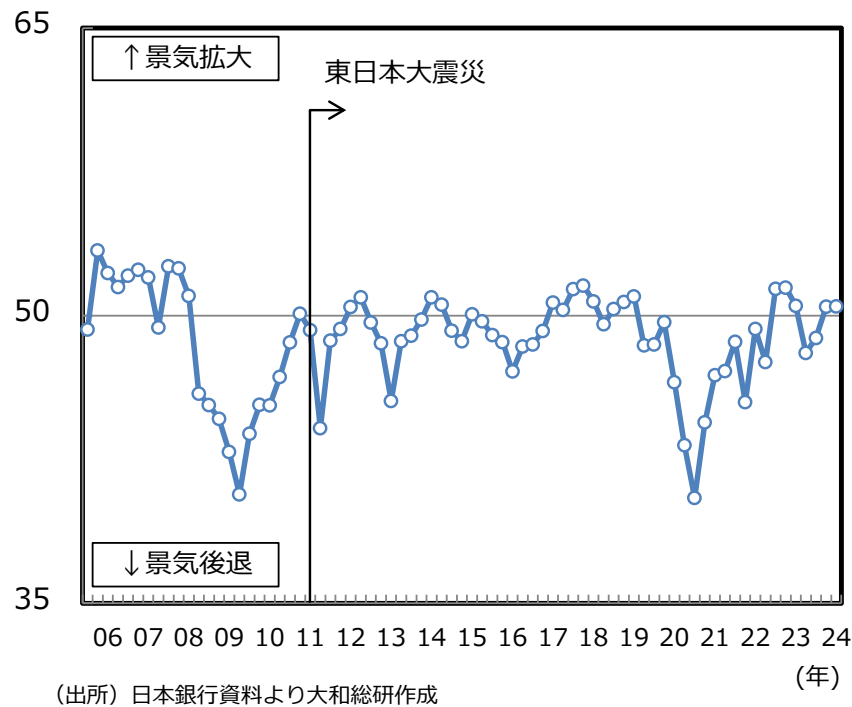
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 10 月	24 年 1 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【個人消費】	→
物価上昇の影響を受けつつも、着実に増加している	物価上昇の影響を受けつつも、着実に増加している
【生産】	→
横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる	横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる

## 東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、前期から横ばいであった(23年10月:50.5→24年1月:50.5)。
- 全ての項目が前回からほぼ横ばいであったため、インデックスに変化はなかった。

### 大和地域 AI インデックスの推移



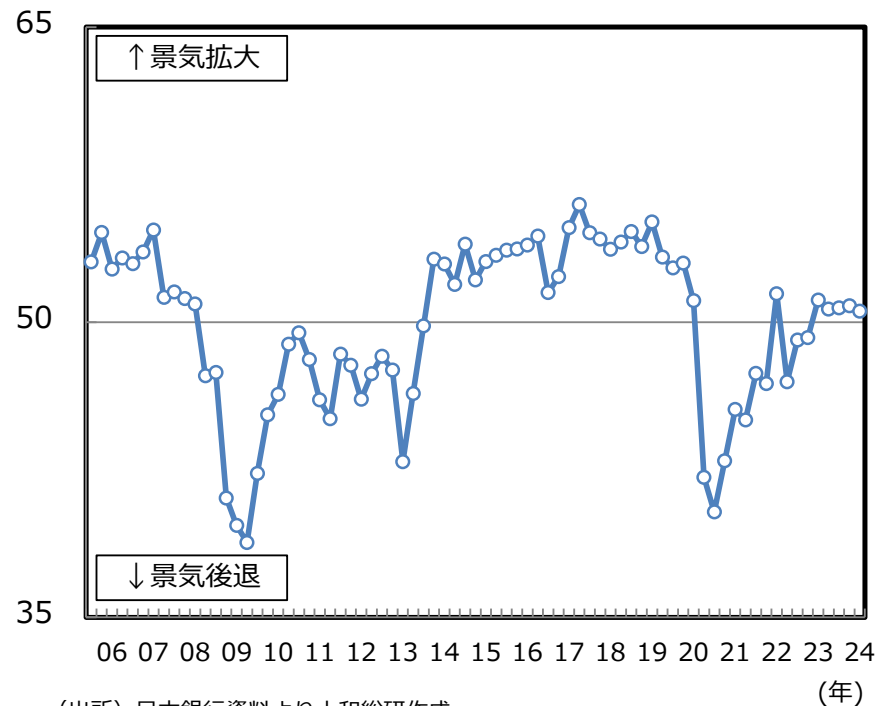
### さくらレポートにおける分野別の判断

23年10月	24年1月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【住宅投資】	→
弱い動きとなっている	弱い動きとなっている
【生産】	→
持ち直しの動きが足踏みしている	持ち直しの動きが足踏みしている

## 北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに下落した(23 年 10 月:50.8→24 年 1 月:50.6)。
- 企業マインドは改善したが、生産が悪化したため、インデックス全体は低下した。
- 生産用機械の弱含みや金属製品の減少で生産が悪化した。なお、今回は能登半島地震による影響は考慮されていない。

### 大和地域 AI インデックスの推移



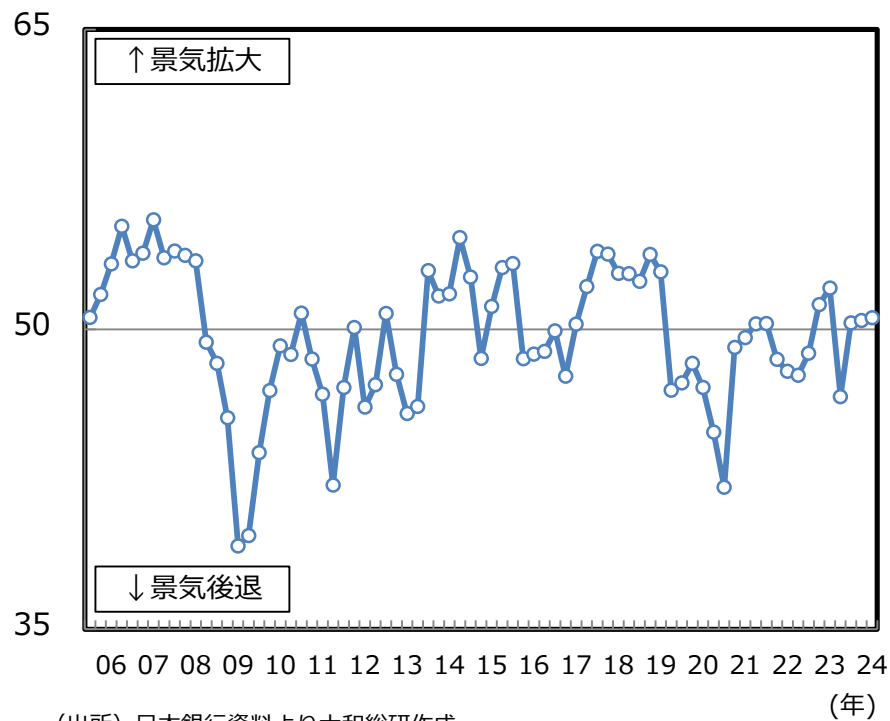
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 10 月	24 年 1 月
【総括判断】	→
緩やかに回復している	今後、令和 6 年能登半島地震の影響を注視する必要があるが、緩やかに回復している
【企業の業況感】	↑
良好な水準が継続している	改善している
【生産：生産用機械】	↓
増勢が鈍化している	弱含んでいる

## 関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(23 年 10 月:50.4→24 年 1 月:50.6)。
- ほとんどの項目が前回から横ばいとなったこともあり、インデックスは微上昇にとどまった。
- 雇用・所得環境は、慢性的な人手不足の影響もあって改善した。

### 大和地域 AI インデックスの推移



### さくらレポートにおける分野別の判断

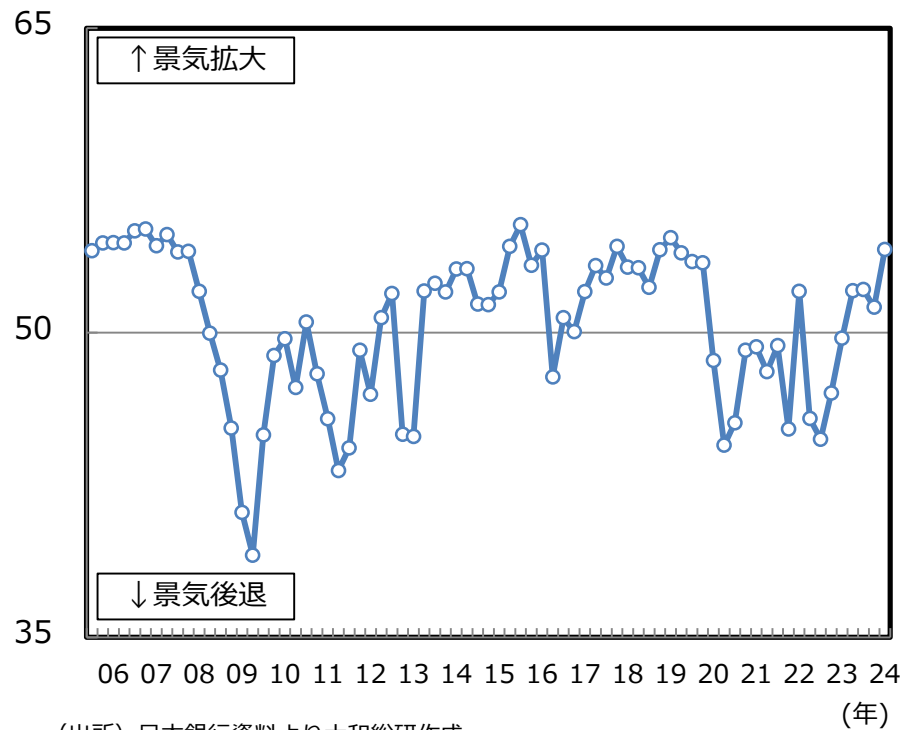
23 年 10 月	24 年 1 月
【総括判断】	→
緩やかに回復している	緩やかに回復している
【消費】	→
物価上昇の影響を受けつつも、インバウンド需要による押し上げ効果もあり、緩やかなペースで着実に増加している	物価上昇の影響を受けつつも、インバウンド需要などによる押し上げ効果に支えられて、緩やかなペースで着実に増加している
【生産】	→
横ばい圏内の動きとなっている	横ばい圏内の動きとなっている



## 東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(23 年 10 月:51.3→24 年 1 月:54.1)。
- 生産、輸出、消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は半導体の供給制約の緩和や高水準の受注残により大きく改善。輸出でも北米向けが堅調で改善した。消費は新型コロナウイルス感染症の 5 類移行によるマインド改善や円安の影響を受けて、人々の外出やインバウンド客が増加、飲食・宿泊サービスの回復などの動きがプラスに寄与。

### 大和地域 AI インデックスの推移



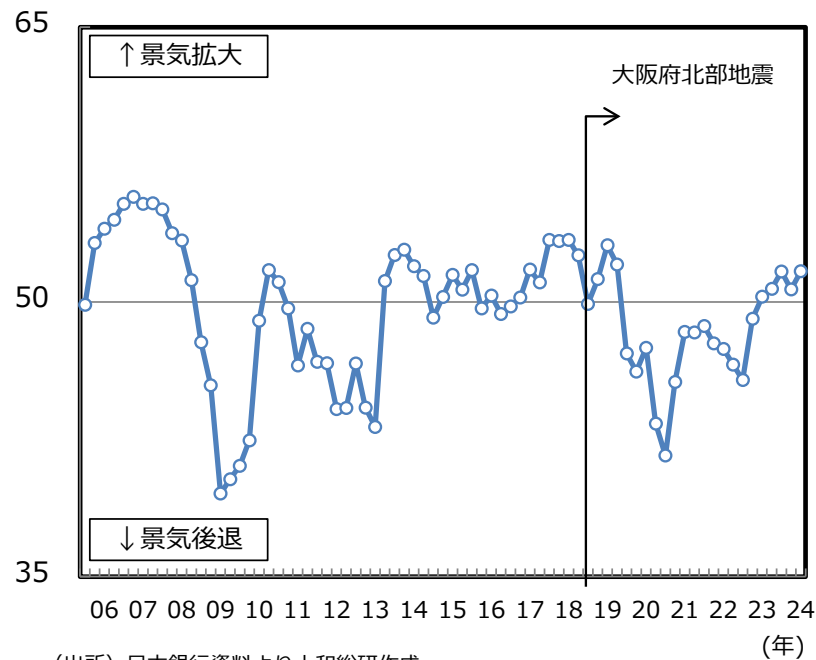
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 10 月	24 年 1 月
【総括判断】	↑
持ち直している	緩やかに回復している
【生産】	↑
自動車関連の部品供給不足の影響が和らぐもとで、持ち直している	業種ごとにばらつきがみられるものの、増加基調にある
【個人消費】	↑
緩やかに持ち直している	持ち直している

## 近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(23 年 10 月:50.7→24 年 1 月:51.7)。
- 輸出などの判断は悪化したが、企業マインドが改善したため、全体としてインデックスは上昇した。
- 中国・NIEs 向けの電子部品等が弱く、輸出が悪化した。一方、企業マインドは窯業・土石製品、金属製品などがプラスに寄与した。

### 大和地域 AI インデックスの推移



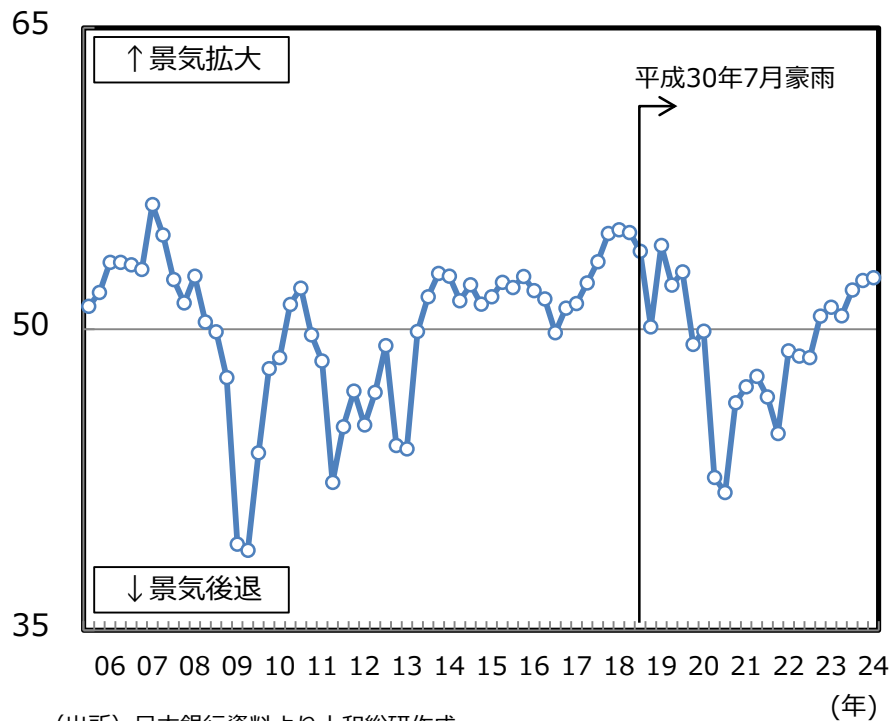
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 10 月	24 年 1 月
【総括判断】	↓
一部に弱めの動きがみられるものの、持ち直している	持ち直しのペースが鈍化している
【輸出】	↓
横ばい圏内で推移している	弱めの動きがみられている
【企業の景況感】	↑
悪化している	改善している

## 中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期連続で上昇した(23 年 10 月:52.4→24 年 1 月:52.6)。
- 設備投資や企業マインドなどは改善したが、消費が悪化したため、インデックス自体は微上昇にとどまった。
- 脱炭素化、中長期的な半導体需要の増加、デジタル化等を見込んで設備投資は改善した。一方、一部の秋・冬物衣料品の販売低調や物価高などの影響で、百貨店売上高や乗用車販売が振るわず、消費が悪化した。

### 大和地域 AI インデックスの推移



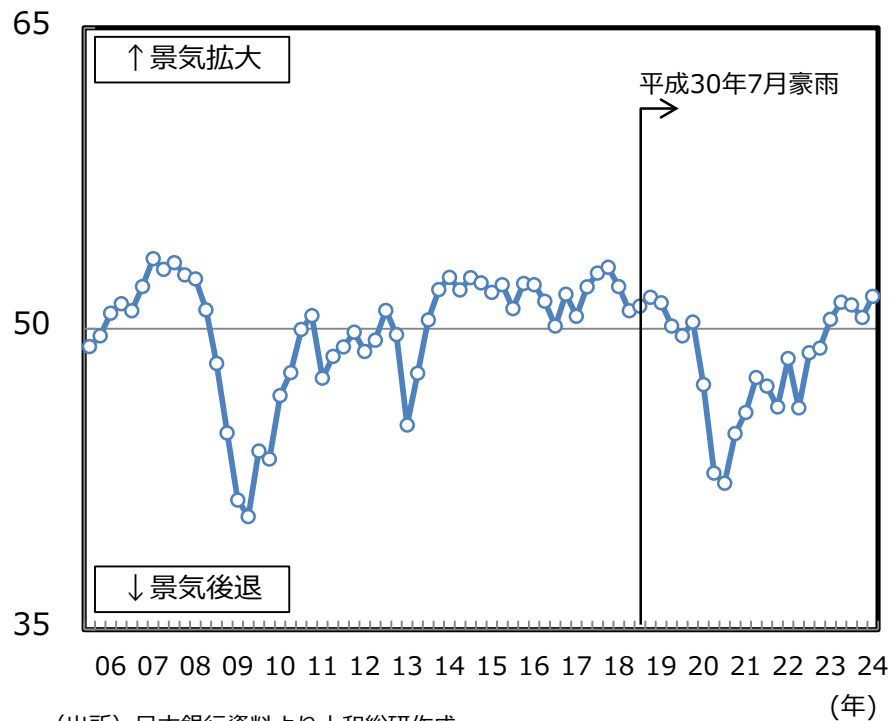
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 10 月	24 年 1 月
【総括判断】	→
緩やかに回復している	緩やかに回復している
【設備投資】	↑
緩やかに増加している	増加している
【消費：百貨店売上高】	↓
持ち直し基調にある	横ばい圏内の動きとなっている

## 四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(23 年 10 月:50.6→24 年 1 月:51.6)。
- 企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは、はん用・生産用・業務用機械や電気機械などがプラスに寄与した。

### 大和地域 AI インデックスの推移



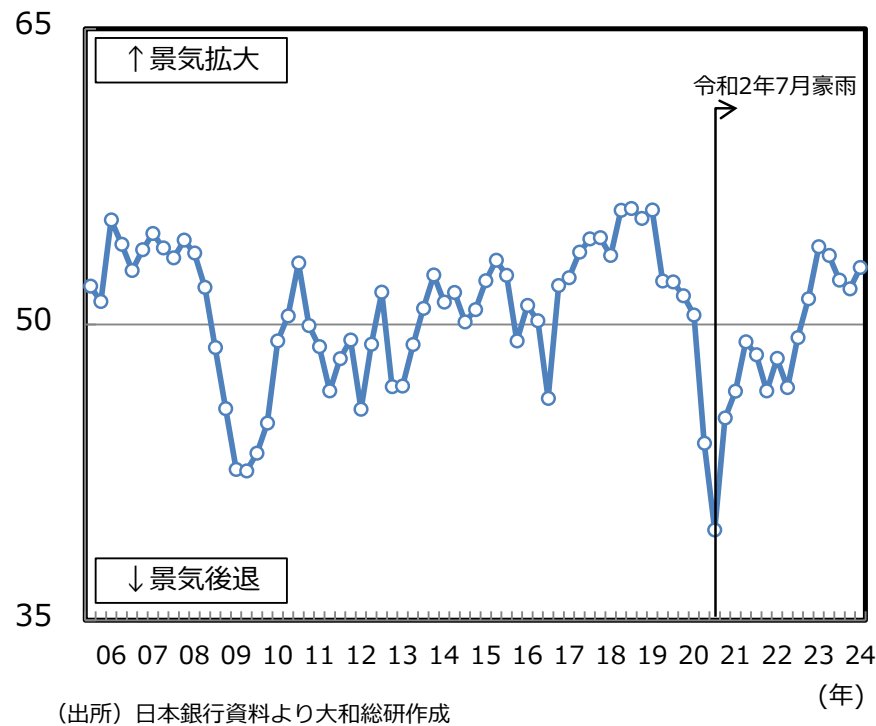
### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 10 月	24 年 1 月
【総括判断】	→
持ち直している	持ち直している
【企業の業況感】	↑
非製造業を中心に 幾分悪化している	製造業を中心に 幾分改善している
【生産】	→
横ばい圏内の動きとなっている	横ばい圏内の動きとなっている

## 九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに上昇した(23 年 10 月:51.8→24 年 1 月:52.9)。
- 輸出や消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 輸出は輸送用機械で米国向けが好調。設備投資は一部で改善しているものの、電子部品・デバイスにおける生産調整局面の長期化により悪化した。

### 大和地域 AI インデックスの推移



### さくらレポートにおける分野別の判断

23 年 10 月	24 年 1 月
【総括判断】	↑
緩やかに回復している	着実に回復している
【消費】	→
回復している	物価上昇の影響を受けつつも、回復している
【輸出】	↑
横ばい圏内の動きとなっている	このところ増加している

## 本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2024年1月11日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

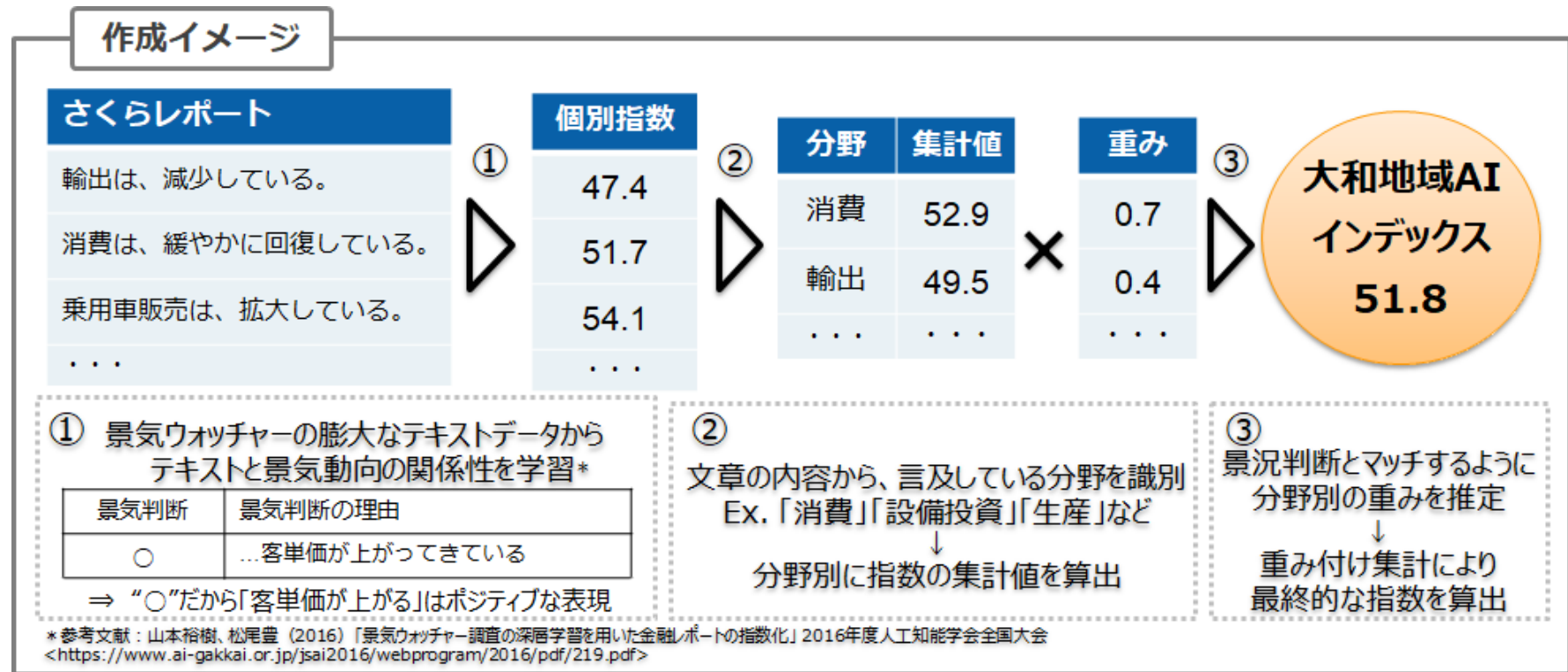
※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

[https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713\\_012142.html](https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html)

## 大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？
  - **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**
  - ※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にもデルを行う予定である。
- 具体的な作成手法は？
  - 日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。
  - AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習。**



## 日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成